

もりおがみだにきようかい
財団法人 一志町ふれあいの森林狼谷協会
(保安林指定み第185号)

会 報

第3号

平成6年11月1日
毎年1回11月発行
発行所 一志郡一志町大字波瀬



「狼谷大黒天」

建立の由来

財団法人一志町ふれあいの森林狼谷協会は、一志町農業協同組合が、創立二十周年記念事業の一環として昭和五十九年十月に取得した約一・七ヘクタールの杉、檜の二十年生山林を、組合員の心の拠り所として、これを後世に残すため平成元年一月に設立した協会である。

山林は水の源であり、水は農の源、農は命の源という思想を基本に、緑美しき狼谷の聖域に開運の神、福の神、生産の神としての農山神である「大黒天」を安置し、心の安らぎを求め、老若男女を問わず広く愛林の心を培う場となることを祈るものである。

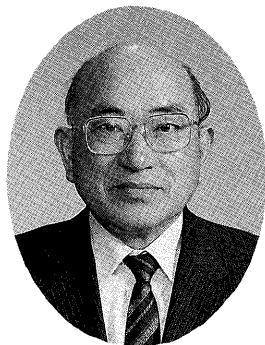
一木一草に神宿る

人間は自然との共生をめざす

●例祭は、正月元旦、十一月二十三日（勤労感謝の日）の年二回、月参日は、毎月一日です。

ごあいさつ

理事長 西 廣 茂



一志町の皆様、平素はご無沙汰いたしておりますが、お元気にお暮らしのことと拝察申し上げます、心からお慶び申し上げます。昨年は、低温、長雨、日照不足の冷夏でございました。

本年の夏は、記録破りの炎暑と少雨の異常気象で農作物への関係はもとより人々の暮らしから工業の生産まで、水不足の影響は深刻でございました。年が変われば、こうも変わるものかと自然の力をつくづくと知らされました。その中であって、コメの作況は十年ぶりの豊作に安心と明るさを私どもに与えてく

れました。

さて、波瀬狼谷の地に足を入れて、早や十年を過ぎました。杉、檜は三十年の年輪を重ね伸び盛りの姿を示しております。また、狼谷に通ずる松山林道が、県及び町の格別な高配と、林道関係者の協力をいただいたおかげにより、舗装整備が立派に完成いたしました。ここに厚く御礼申し上げます。

さらに、農山神としておまつりいたしております大黒天の上屋を新築することができました。お正月と秋（十一月二十三日・勤労感謝の日）の例祭、毎月一日を月参日といたしておりますが、多数のご参拝をいただきありがとうございます。当協会も本年度で五周年の節目を迎えることができました。今日に至るまで皆様からご理解やご協力をいただき誠にありがとうございます。

す。今後とも、変わリませぬご支援をお願い申し上げます。私たち役員一同、協会設立の趣旨を忘れずに奉仕する心で森林と大黒天を守り神域を長く愛していただくことを念願するものでございます。さらに、本協会の健全な運営管理に努める所

存でございます。「この水の行く手に幸多かれを祈る」——あるダムの碑文であります。今、狼谷杉の井の清らかな水で心を洗い皆様のご健勝をお祈り申し上げごあいさついたします。

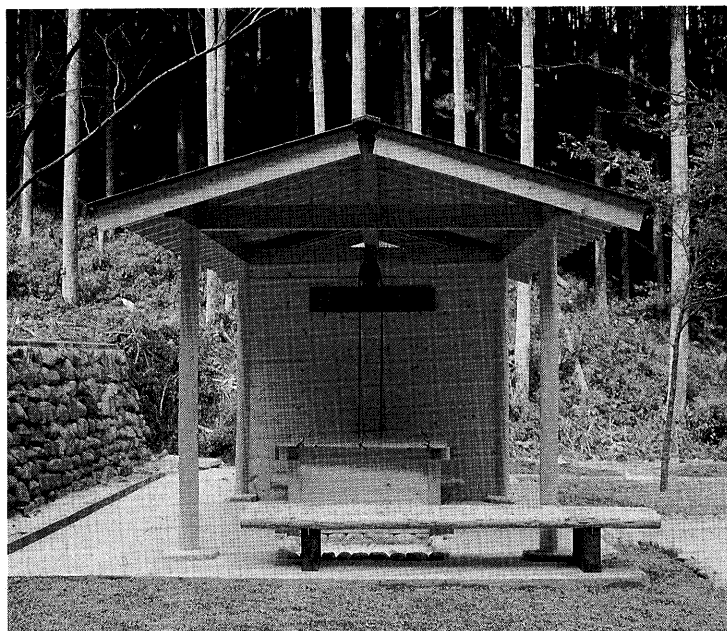


杉の井掘さくの所以

ゆえん
平成五年十月掘さく

狼谷の谷あいには雨水が地下水となり、迂余曲折、めぐり廻つて地中を潜りぬけ、やがて石清水となり、僅かながら平坦地

に湿原をつくる。地域住民は目覚めこれを見つけ、天水利用の稲作に挑む。先ず、ケモノみちを踏みつけ



たりして道に広げる。そして土手を築き畦を構え畔を整えて水の確保に意を注ぎ、菅の笠に隠される程の土地でさえ見のがさず、いわゆる小町農法を試みる。また、自生する手ごろな木を伐り稲架を組み皮を剥いで箕にし、水を田に呼び込んだりする。

また、田の畔の畦沿いに手槌で打った稲架のあしをひき抜くと、そこには美しい水がじきに穴からこぼれるのに出会う。以後太めの杭を木づちで打ちこんで出水（真水）をたくわえる。そして冷たい舌ざわりの良い、この水を汲んで渴きをいやし、湯に沸かしてたて汁などつくり舌鼓を打つ。

また、この辺地には、いたる所にとり薬（センブリ）、梅曼草（ゲンノショウコ）、かごん草、おとぎり草、りんどうなどの薬草が多く自生し、これら成分は初夏の腹調、真夏の暑気あたりにはほどよく適応し健康の保持に及ぼしたことも見逃せない。事後、梅雨入りをみては、いち早く植付けを済ませ折に触れ

て田見まわりの黄昏、段々に広がる小町小町の一枚一枚に、いわゆる田毎の月が照り今更ながら腰を伸ばして天を仰ぎ、そのすばらしさに満足し、悦に入った先人の姿が偲ばれる。このたび、全山杉檜の緑に囲まれた境内に、大黒天を翳すうち出の小槌に想を得、農を支えた古人の水に対する苦勞を呼びおこし、農の基は水にあることと合わせて井戸の掘さくを発起する。

そして、この9月吉日、準備万端整えて大槌を下したところ、きれいな真水がこの井戸に沸き出す。この水は数多い杉檜の大根小根を巡り山あいの千草の根を洗い、黄金の実を咀しゃくした冷たい水でその昔、祈りをこめて町々に蓄えた水そのものと言える。また、山岳信仰の願いとも重なって銘水、霊水として広く重宝されよう。

よって、この井戸を杉の井（すぎのい）と称し、この水を狼谷大黒天水愛称を「小町」と名づけられる所以である。

ふれあいの森協会（略称）

設立の趣旨

長期にわたる木材価格の低迷、山林労働者の高齢化、林業経営諸経費の増加などによる林業生産活動の停滞に加え、大都市集中型の経済成長に伴う山村の過疎化の進行等の要因によって、森林の荒廃は限りなく進みつつある。それに伴い、山林への関心も希薄化し、人々の心は、自分たちの生活が、森林の恩恵を受けて営まれていることすら忘れ去ろうとしている。

そんな中、当時の一志町農協では、農協創立二十周年記念事業の一環として昭和五十九年十月、一志郡一志町大字波瀬字松山に、一・七ヘクタールの杉、檜の二十年生の山林を取得した。その趣旨は、森林は水の資源であり、水は農の源、農は命の源という思想を基本に、地域の組合員が共有の山林を保有し、それに接することによって山を愛することと育てることを目的

としたものである。

この大いなる目的で取得された山林を、一志町農協から寄付を受けるにあたり、維持管理に つとめ、その趣旨をより具体化する手段として、財団法人「一志町ふれあいの森狼谷協会」を設立したものである。

この基金による果実をもとに、森林を中心として、「森林（もり）」と水と人間（ひと）とのふれあい「森林（もり）」と水と生活・産業（くらし）に関する活動への助成「森林（もり）」と水の文化の伝承」を三本柱として、関係機関の協力を得て、公共の福祉に資する活動の展開を図るものである。

あわせて地域の発展と、活力ある農山村づくりを進めるものである。

なお協会の運営については、財団法人一志町ふれあいの森狼谷協会寄付行為（運営規則）により、県の指導監督のもとに

運営されるものである。

取得の経過

昭和五十九年十月八日
波瀬老友会より山林取得
昭和六十年一月十八日
波瀬 小畑 長氏より水田取得

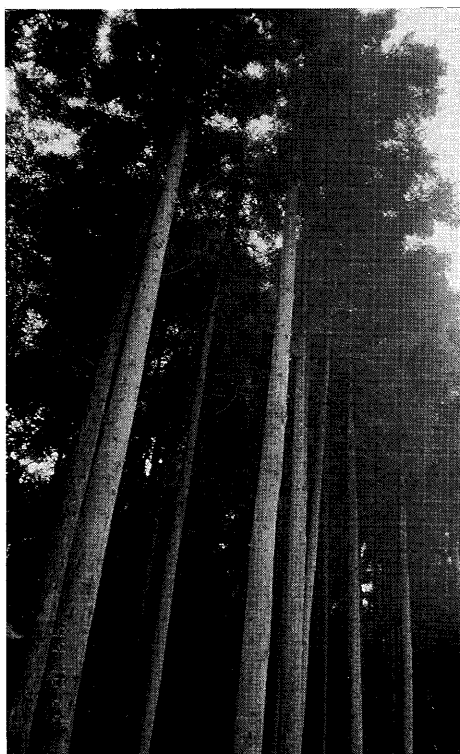
県の認可及び指定

平成元年一月二十日
財団法人一志町ふれあいの森狼谷協会設立認可、
（三重県指令農政第一〇八号三重県知事、民法第三十四条）

平成元年三月二十二日
三重県より保安林の指定を受く、（三重県告示第一八五号、森林法第三三条第三項）

森林の所在地・面積等

一志町大字波瀬
字松山七七六一番地
山林 三、一六〇㎡
一志町大字波瀬字松山
七七六二番地の一六
山林 一四、一八一㎡
【面積計】
一七、三四一㎡



樹齢30年の狼谷の杉

森の恵みあふれる 飯高町を訪ねて

理事 奥田 孝 夫

平成六年七月十五日、当協会の西廣理事長をはじめ役員、事務局一同が、森の豊かな飯高町を訪ねる。飯高町は櫛田川の源流で、高見トンネルを介して、奈良県東吉野村に接する林野率九十パーセントのまち。また、ふるさと創生事業の一環として「おいでよほくのふるさと」とTVコマースシャルを流しているまちでもある。

その後、久保森林組合長から銘木吉野材の育林の流れを汲む町林業の概要と、二十六名七作業班の活動状況を聞く。役場前には、陣屋風の物産販売所「飯高駅」（年販売額五千万円）がある。役場をあとに、車は本県屈指の山林家である田中さんの山を目指して、櫛田川沿いに遡る。欧風の波瀬小学校や陶芸の森などを垣間見ての、町産業課の車中説明は続く。田中さんの山林（町内森林面積二万一千七百二十ヘクタール中本人名義千二百六十ヘクタール）では、個人の開設になる林道は広く、間伐の行き届いた三十年生の杉が誠にゆったり丸々と育っている。反に五百本と密植して、このように三十年生では反五十本と間伐していく吉野育林の説明にも力が入る。一行は続いて田中さんの口窄（くちすば）の森へ。明治の終わりに植林された銘木は、それほど太くない。一同、暫時安らいだ心地で森林浴を楽しむ。そこから少し登ったところに泰運寺がある。書の大変お上手な

天開山十七代泰道和尚は既に亡くなり、禅寺には細身の坊さんが一人。県指定文化財の八角梵鐘を撞き大黒天にもお参りして下山、蓮ダムに向う。民家六十戸を没し、二十年の歳月をかけた多目的ダムを背に記念写真を撮る。車は急ぎ「スメール」へ。町営の宿泊施設「香肌荘」に隣接のこの「スメール」は、国庫補助金と過疎債で二年程前に建てられた風呂付きの都市交流センターである。なおダム関連で造成されたこの一面は、現在国の補助事業である交流促進拠点施設整備事業により「奥香肌峡健康の森」として整備が進められている。この健康の森には、都市交流センターの他、まもなく完成するホテルやスポーツ広場など数多くの施設の設置が計画されてい

る。こうした村おこしへ向けての取り組みは、ダム関連の施設とも相まって誠に意欲的である。昼食ののち、木の香も新しい湯舟で芯までくつろいだ。千メートル級の連峰に包まれた自然の恵みと、新たな息吹きに触れ、充実したそして心穏和一日であった。



★平成5年度活動助成金の内訳

(単位：円)

事業名		金額
農協実行組合活動費		4,266,971
内訳	①農協実行組合費	36,060
	②農協実行組合会議費	210,000
	③農協実行組合活動費	3,018,600
	④農協実行組合豊年祈願祭及び綱引大会	1,002,311
年金友の会長寿慶祝者祝		579,748
年金友の会活動助成金		579,300
各地区老人クラブ		400,000
一志町老人クラブ連合会		100,000
一志町の農業を守る会		279,720
土地改良区協議会		200,000
農協婦人部活動助成金		200,000
学校及び地区行事寄付金		104,280
農業委員会		100,000
町政懇談会		74,657
敬老会		15,000
その他活動費		804,652
合 計		7,704,328

財 産 目 録

(平成6年3月31日現在)

資 産 総 額 340,315,665円

【内訳】 山 林 17,341㎡ 一志町評価額 381,502円
(取得額) 5,700,000円

基本財産(三重中央農協定期貯金) 325,000,000円

内 訳

(単位：円)

定期貯金	満 期 日	金 額
	平成6年10月23日	200,000,000
	平成7年3月26日	61,800,000
	平成6年4月1日	18,200,000
	平成6年10月28日	10,000,000
	平成6年4月24日	10,000,000
	平成6年8月6日	25,000,000
	合 計	325,000,000

※ 運用財産(三重中央農協普通貯金) 14,934,163円

平成5年度収支決算書

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
Ⅰ. 収 入 の 部		
1. 基本財産運用収入	11,930,017	
基本財産利息収入	11,930,017	定期貯金利息
2. 運用財産運用収入	43,697	
運用財産利息収入	43,697	定期・普通貯金利息
3. そ の 他	154,767	間伐助成116,765円 賽銭ほか
当期収入合計(A)	12,128,481	
前期繰越額	21,303,652	
収入合計(B)	33,432,133	
Ⅱ. 支 出 の 部		
1. 事 業 費	16,888,671	
活動助成金	7,704,328	次ページ内訳明細書
整備費	8,026,850	1期3,266,000円 2期1,650,000円 事務局改造費2,987,000円ほか
保全管理費	261,326	
租税公課	10,000	
什器備品費	584,967	事務室備品
印刷製本費	278,100	会報第2号
負担金	12,000	
保険料	11,100	
2. 管 理 費	1,609,299	
役員報酬	840,000	役員34名
給料手当	70,000	事務局2名
会議費	669,208	協会役員会会議
旅費交通費	0	
消耗品費	0	
図書研修費	0	
雑費	30,091	写真フィルム代
3. 基本財産支出	0	
基本財産繰入支出	0	
当期支出合計(C)	18,497,970	
当期収支差額(D)=(A)-(C)	▲ 6,369,489	
次期繰越額(E)=(B)-(C)	14,934,163	

平成六年度事業計画書

財団法人のシンボルである山林（狼谷大黒天）の継続した整備に努めるとともに「森林（もり）」と水と人間（ひと）とのふれあい」「森林（もり）」と水と生活産業（くらし）に関する活動への助成」「森林（もり）」と水の文化の伝承」を三本柱として関係機関の協力を得て、公共の福祉に資する活動の展開を図りあわせて地域の発展と活力ある農山村づくりを進める。

【事業内容】

一、森林（もり）の下刈りを春秋に行うほか、指定保安林としての間伐、整枝等の整備を行う。
二、参道（遊歩道）全面舗装の完了にともない参拝者を広く募るとともに水の利用を広める。
三、大黒天を心の安らぎ、大黒

ひろばとして愛され、親しまれ、広く資源を理解し、愛林の心を培う広場として活用する。

四、大黒天周辺の整備を行う。

(1) 参道及びケヤキ園の花木等の植樹

(2) 大黒天本殿上屋の整備及び便所の設置

(3) 杉の井掘さく所以の看板（案内板）の設置

五、長寿慶祝規程に基く誕生日の家庭訪問。

六、祭典及び月参日の設定。

(1) 狼谷大黒天 新春元旦祭
(2) 狼谷大黒天 例祭

11月23日
(勤労感謝の日)

(3) 月参日 毎月1日
月の一日を月参日と定め、参拝者を広める。

なお、月末を清掃の日と定める。

年金友の会会員

長寿慶祝規程

(財)一志町

ふれあいの森林

狼谷協会

一、趣旨

高齢化社会の進展に即応して会員の長寿をお祝いするとともに、その家族の敬老心を讃え、健康的な家庭を祈念してお祝を贈るものとする。

二、対象者

三重中央農協年会友の会一志支部所属の会員（町内在住者）で、毎年八〇才に到達した方。

三、贈呈内容

金一封（家族）

記念品（本人）および御祝状

四、贈呈時期および方法

満八〇才の誕生日に直接家庭を訪問し祝う。

五、実施時期

平成元年二月一日

（この規程に基づいて毎年お祝をしています。）



平成6年度収支予算書

（平成6年4月1日～平成7年3月31日）

（単位：円）

科 目	平成5年度決算額	平成6年度予算額	摘 要
I. 収 入 の 部			
1. 基本財産運用収入	11,930,017	7,000,000	
基本財産利息収入	11,930,017	7,000,000	
2. 運用財産運用収入	43,697	30,000	
運用財産利息収入	43,697	30,000	
3. 基本財産より繰入額	0	10,000,000	
4. その他	154,767	0	
当期収入合計 (A)	12,128,481	17,030,000	
前期繰越額	21,303,652	14,934,163	
収入合計 (B)	33,432,133	31,964,163	
II. 支 出 の 部			
1. 事 業 費	16,888,671	18,796,000	
活動助成金	7,704,328	8,000,000	
林道負担金	0	5,806,000	4/28支払い
整備費	8,026,850	4,000,000	本像上屋根ほか
保全管理費	261,326	500,000	
租税公課	10,000	10,000	
什器備品費	584,967	100,000	
印刷製本費	278,100	300,000	会報第3号
負担金	12,000	50,000	
保険料	11,100	30,000	
2. 管 理 費	1,609,299	1,670,000	
役員報酬	840,000	850,000	役員34名
給料手当	70,000	100,000	事務局3名
会議費	669,208	500,000	
旅費交通費	0	20,000	
消耗品費	0	100,000	
図書研修費	0	50,000	
雑費	30,091	50,000	
3. 基本財産支出	0	0	
基本財産繰入支出	0	0	
当期支出合計 (C)	18,497,970	20,466,000	
当期収支差額 (D)=(A)-(C)	▲ 6,369,489	▲ 3,436,000	
次期繰越額 (E)=(B)-(C)	14,934,163	11,498,163	

一志町ふれあいの森林狼谷の位置

